

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 長崎県立対馬高等学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☒ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒817-0016
長崎県対馬市厳原町東里 120 番地

E-mail s70280@news.ed.jp

Website <http://www.news.ed.jp/tsushima-h/>

児童生徒数 男子 247 名 女子 257 名 合計 504 名
 児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☒ その他（ 地域活性化 ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載

(I) 学校行事等

ア 日韓ビーチクリーンアップ 2015

5月30日(土)、31日(日)に開催された標記清掃活動に、本校生徒、職員延べ80名が参加し、地域住民および釜山の大学生らとともに、上対馬の海水浴場を清掃した。

韓国語や韓国の文化を学ぶ本校の「国際文化交流コース」の生徒を中心に、韓国人大学生とコミュニケーションをとったり、大きなゴミを協力して運んだりするなどの交流が、自然発生的に行われていた。



イ キックオフ講演会

対馬高校がユネスコスクールへの加盟を認められたことにより、対馬市、環境省と対馬高校の3団体で協定を締結し、持続可能な地域づくりを担う人材の育成に努めている。

その一環で、7月に東京工業大学の森原淳特任教授をお招きして、標記講演会を実施した。

森原特任教授には、対馬の漂着ゴミや再生可能エネルギーに関する講演をしていただいたが、故郷対馬で予定されている計画を初めて知る生徒が多く、興味、関心を抱いていた。



ウ 島おこし実践塾

8月20日(木)～23日(日)の3泊4日で、本校生徒12名が、対馬市が主催する島おこし実践塾に参加した。

島おこし実践塾とは、過疎化が進む地区で民泊しながら、地域の方々とともに地域づくりの新しいアイデアや手法などを考えるという取り組みで、本校生徒を含む14名の市内高校生と、島内外から大学生、社会人約20名が参加した。

島内に大学等の高等教育機関がない状況において、参加した生徒たちは特に、大学生の考え方などに刺激を受けていた。



エ 第3回日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬

8月23日（日）に、第3回日韓海岸清掃フェスタ IN 対馬が開催され、本校から生徒21名と、職員2名が参加し、対馬市上県町佐護地区の阿保海岸の清掃にあたった。

また、清掃後は参加者同士で漂着ごみに関する意見交換が行われたり、発泡スチロールの脱塩・減容化実験が行われたりした。



オ 西表島エコツアー

10月10日（土）～12日（月）の2泊3日で、対馬市のバックアップのもと、西表島への研修旅行が実施され、4名の生徒が参加し、生態系に関する研修や、ヤマネコに関する研修を受講した。

また、この4名は12月に行われた対馬市主催の「ヤマネコ祭り with サイエンスカフェ」や「対馬学フォーラム 2015」において、本校国際文化交流コース、商業経済部の生徒らとともに、市民向けの発表を行っている。



カ ユネスコスクール講演会

12月2日に、環境省ツシマヤマネコ野生順化ステーションから、自然保護専門員の岩下明生様と自然保護官補佐の山口貴子様をお招きして、対馬の生態系や野生動物に関する講演会を実施した。

ツシマヤマネコを始め、固有の生態系を持つ自然豊かな対馬ではあるが、身近にツシマヤマネコが生息していないこともあり、生徒たちの興味、関心は薄いように感じる。

そのような中、専門家に話をいただいたことにより、対馬の自然環境が特別であることに気付き、対馬に対する理解を深めた生徒も多かったように思う。



(Ⅱ) コース・部活動等

ア 国際文化交流コース

《韓国の大学生や高校生との交流》

○釜慶大学校との交流会（7月 対馬・交流センターにて）

○釜山情報観光高校との交流会（10月 本校にて）

○釜山韓国語研修・ホームステイ（12月 釜山外国語大学校にて）

○大邱市啓明大学校との交流会（1月 対馬・交流センターにて）



《国際交流部の活動》

国際交流部は、現在国際文化交流コースの生徒を中心に活動を行っている部活動です。2014年度から1年間という長期にわたり、対馬に来る韓国人観光客に向けてアンケート調査（1350枚を回収）を実施して、観光客の動向を調べました。アンケートの作成・翻訳・集約・分析も生徒達で行い、貴重なデータを得ることができました。それを基に、昨年10月に、上対馬商工会議所、12月に“対馬学フォーラム2015”で発表させていただきました。その後、長崎新聞と対馬の「市政だより」にも記事を掲載していただきました。

上対馬商工会議所で発表 10月31日（土）

上対馬商工会議所の関係者（主にホテル・商店などの自営業の方）約20名に向けて発表を行いました。最初に国際文化交流コースの説明を行い、そのあとに国際交流部が実施したアンケートに基づき、韓国人観光客の動向について発表しました。参加していただいた方から「こんな大規模な調査を高校生でするなんてすごいですね」「観光客の動向も変わるので、数年に一度、定期的に行ってほしい」といったご意見をいただきました。



“対馬学フォーラム2015” 12月13日（日）

対馬を研究している62の団体が、それぞれの研究結果を持ち寄り、ポスター発表大会が開催されました。国際交流部は、来場者が選ぶ“市民賞”（3団体のうちの1つ）に選ばれました。



イ 商業経済部

【長崎県との「対馬新商品開発プロジェクト」について】

このプロジェクトは、長崎県対馬振興局に依頼され、平成26年9月から行っている特産品開発のための活動です。プロジェクトには、対馬高校、対馬振興局、対馬市、対馬観光物産協会、対馬市商工会、まちおこし団体、女性グループが参加し協働して商品開発にあたっています。また今後は、対馬島内の高校生が参加できるよう、豊玉高校や上対馬高校にも活動をお願いしています。

プロジェクトの中では、開発商品を島内外で販売する活動も行っています。島内のイベントやクルーズ船来航時、島外では博多阪急や長崎浜屋で販売を行っています。また、長崎県美術館では、夏のイベントにあわせて、開発したスイーツをカフェで提供していただきました。その際、長崎県の離島半島インターンシップ制度を利用し職業体験も生徒が行いました。平成28年3月にもイベントにあわせて、開発商品をミュージアムショップで販売していただく予定です。

【対馬新商品開発プロジェクトによる開発商品】

i つしまぷーくれ（クレープ）

生徒による製造販売でショッピングセンターやイベント等に出店しています。対馬のさつまいも（孝行芋）から作られる郷土食材「せん」を混ぜた、もちもちの生地が特徴。

ii 白嶽sweet（スイートポテト）

商工会から公募をかけ、製造販売企業を募集した商品。島内の株式会社ウエハラが運営するパパン（パン・菓子製造業）にて販売中。下のタルト生地に「せん」を混ぜ、上にスイートポテトを対馬の名峰「白嶽」をイメージしてのせている。中には、大学芋と生クリームが入っており、こちらも対馬のサツマイモをPRしたいと考えた商品。



iii 白嶽ムース（ムース）

白嶽sweet同様に、商工会から公募をかけ、製造販売企業を募集した商品。島内の山田松月堂（洋菓子店）と株式会社ウエハラパパンにて販売中。ムースに、対馬の日本酒「白嶽」を入れて、上には対馬産ブルーベリーソースがかかっている。



iv 「和蜂」対馬純粋はちみつ

既存商品のパッケージ変更を行い、平成28年3月から販売する商品。まずは、長崎県美術館のミュージアムショップで販売してみて、パッケージをより良いものにしていける予定。



クレープ販売風景



美術館販売のための下見



クルーズ船販売

その他、商業経済部では、NPO法人対馬郷宿と協力しながら、対馬の特産品や名所などを紹介するフリーペーパーを作成し、市内各所で無料配布している。

過去、5冊のフリーペーパーを作成しており、その内の1冊は、対馬に多数訪れる韓国人観光客のために、国際文化交流コースと連携して韓国語版も作成し、配布している。

ウ 家庭クラブ

「寒さからの冷え解消」～エコで体にやさしい温かさを目指して～をテーマに平成25年度より研究活動をしています。今年度はその研究発表が佐世保であり、最優秀賞をもらうことができました。



地域の1人暮らしの高齢者や老人ホームの高齢者や職員の皆さんに御協力いただきながら、ぬか袋を広める活動をしています。今年度は、自宅訪問で10個、老人ホームへ30個ほど届けることができました。



市販のカイロとは違い、適度な湿度があり体にやさしい温かさです。
ぬか袋の中身はぬか100g、玄米(米)100g、天然塩50gです。



綿の布を使って二重にして縫います。



対馬は、長崎県に属しているため、「暖かい」というイメージがありますが、対馬の寒さを知ってもらうことから始まったぬか袋作成。製作から普及活動まで行うことで、日常生活における経済面、環境面、健康面について考えることができました。離島というと社会環境や物資が乏しいところがありますが、これからも地域の人たちと協力しながら、私たちにできることを少しずつ頑張っていきたいです。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☐ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☒ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）